

令和8年度 第1回習志野市スポーツ推進審議会 会議録

1 開催日時 令和8年7月1日(水)午後4時00分～午後5時00分

2 開催場所 市庁舎5階 委員会室

3 出席者

【会長】	習志野市スポーツ推進委員連絡協議会 副会長	阿川 幸平
【副会長】	習志野市スポーツ協会 副理事長	山口 一
【委員】	習志野市スポーツ協会 理事	吉見 知子
	千葉工業大学創造工学部教育センター 教授	引原 有輝
	東邦大学理学部 准教授	澁川 賢一
	順天堂大学スポーツ健康科学部 前任准教授	大久保 菜穂子
	習志野市小中学校体育連盟 副会長(谷津小学校校長)	杉山 健一
	習志野市政策経営部 部長	奥井 良和

【事務局】	生涯学習部	部長	海老原 智実
	生涯スポーツ課	課長	伊東 尚志
	生涯学習部	主幹	近藤 孝洋
	生涯スポーツ課	係長	小倉 康裕
	生涯スポーツ課	副主査	長束 友希央
	生涯スポーツ課	主任主事	小林 飛大
	生涯スポーツ課	主任主事	青木 瑞奈
	生涯スポーツ課	主事	武藏 恵莉加
	生涯スポーツ課	主事補	今本 成哉
	生涯スポーツ課	主事補	荻 陸人

4 報告

- (1) 令和7年度生涯スポーツ課主要事業について
- (2) 令和7年度習志野市スポーツ推進計画事業評価について
- (3) 第一カッターフィールドリニューアルイベント
「スポーツフェスティバル」について
- (4) 令和9年度全国高等学校総合体育大会について

(5) その他

任期中の会議日程について

5 会議資料 ※別添資料

(1) 令和7年度 生涯スポーツ課主要事業報告

(2) 「習志野市スポーツ推進計画」について

習志野市スポーツ推進計画評価表

(3) 第一カッターフィールドリニューアルイベント「スポーツフェスティバル」実施報告

(4) 令和9年度全国高等学校総合体育大会について

<議事内容>

第1 会議の公開

【阿川会長】

本日の会議は、「習志野市教育委員会の所管に係る習志野市附属機関設置条例施行規則」により、原則公開である。

また傍聴者は定員に達するまで入室を認めるが、非公開となった場合は指示に従っていただく。

第2 会議録の作成等

【阿川会長】

会議録については、要点筆記とし、会議名、会議日程、会議場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載し、非公開の審議事項を除く記録について、市のホームページ及び市役所のグラウンドフロアの情報公開コーナーにおいて公開する。

第3 会議録署名委員の指名

【阿川会長】

杉山委員、奥井委員とする。

第4 報告

【伊東課長】

報告事項(1) 令和7年度生涯スポーツ課主要事業について説明する。

資料「令和7年度 生涯スポーツ課主要事業報告」をご覧ください。

(1) 次期習志野市スポーツ推進計画の策定

令和8年度から令和15年度を計画期間とする習志野市スポーツ推進計画を策定した。

本計画の基本理念は、「ウェルビーイングの向上と交流・まちの活性化」としている。

(2) スポーツ推進審議会の開催

「令和6年度の事業評価」、「令和6年度の生涯スポーツ課における主要事業の報告」、「次期習志野市スポーツ推進計画の策定について」の審議のため、3回開催した。

(3) 「総合型地域スポーツクラブ」の支援

3つの総合型地域スポーツクラブを支援するほか、連絡協議会運営委員会を開催し、クラブの情報交換、交流会を実施した。

(4) スポーツ奨励大会の実施

市民が気軽にスポーツに触れることができるよう、5つの事業を企画した。しかし、荒天による中止のため3つの事業のみを実施した。

1. 「オール習志野歩け歩け大会」は、市役所を起点、終点とし、袖ヶ浦、秋津、香澄方面に4km、8kmの2コースを設定し、6月に実施した。
2. 「ニュースポーツフェスティバル」は、東部体育館を会場に、ドッジビー、ボッチャのほか、輪投げや缶積み等の子どもコーナーを設け、7月に実施した。
3. 「みんなでモルック」は、幅広い年代で気軽に楽しめる競技であり、秋津小学校校庭にて、多くの方に参加いただき、11月に実施した。

令和7年度実施した3大会の参加状況は、419名であった。

(5) 市民スポーツ指導員による地区活動の推進

地域に応じたスポーツ・レクリエーション活動を推進するため、16地区ごとに地区活動として、52事業を実施した。

(6) 市民スポーツ指導員養成講座の実施

令和7年度は、3年に1回行うスポーツ指導員養成講座を実施した。応急手当や熱中症予防に関する知識・技術の習得に加え、地区活動への参加などを通じた実践的な研修を行い、29名が全過程を修了した。

(7) 学校体育施設開放事業の実施

市内16小学校のグラウンド・体育館を土曜日・日曜日・休日に一般開放し、市民に対してスポーツの場として提供した。利用人数は、16小学校合計で、186,395人で

あった。

夏季休業中は、市内の津田沼小、袖ヶ浦東小、秋津小、東習志野小の4つのプールを開放し、市民が水に親しむ機会を提供した。

(8) スポーツ活動奨励金の交付

各種スポーツの国際大会・全国大会・関東大会へ出場した選手に奨励金を交付し、市民のスポーツ活動を支援する事業である。47件、97人、96万円を交付した。

(9) スポーツ施設の管理運営

公益財団法人 習志野市文化スポーツ振興財団へ管理・運営を委託し、市民のスポーツ活動の場を提供した。

(10) スポーツ施設の整備

袖ヶ浦体育館空調設備設置工事、第一カッターフィールドグラウンド人工芝化整備工事、その他施設の修繕を実施した。

(11) 「みる」スポーツの推進

オービックシーガルズのホームゲームに係る広報やライスボウルへの招待、千葉ロッテマリーンズの市民招待、アルティエリ千葉の市民招待を実施した。

【阿川会長】

事務局からの説明に関して意見等はあるか伺う。

阿川会長が他に質疑なしと認め、報告(1)は終了した。

【伊東課長】

報告事項(2) 令和7年度習志野市スポーツ推進計画事業評価について説明する。

資料「習志野市スポーツ推進計画」について、習志野市スポーツ推進計画評価表をご覧いただきたい。

習志野市スポーツ推進計画は、令和2年度から令和7年度までの6年間を計画期間としていた。

本計画では、「するスポーツの推進」「みるスポーツの推進」「支えるスポーツの推進」の3つを基本の柱とし、45事業(うち1事業は東京オリンピック・パラリンピックの中止、無観客開催に伴い実施不可)を評価対象として、スポーツの推進に取り組んだ。

評価全体像として、A評価は、令和6年度の21事業に対し令和7年度は24事業。B評価は、令和6年度の16事業に対し、令和7年度も16事業。C評価は、令和6年度の7

事業に対し、令和7年度は4事業であった。A 評価の事業数が増加し、C 評価の事業数は減少した。また、評価目標値には達していないものの、取り組み内容を工夫するなど、対策を講じた事業もあった。

続いて、資料「習志野市スポーツ推進計画事業 評価集計」をご覧ください。

令和7年度までの計画に位置付けられた事業は全部で45ある。評価シートに関して、当審議会に報告したのち、各担当課へフィードバックし、今後の事業推進に活用してもらいたいと考えている。なお、評価に関しては、令和元年度の数値を基準とし、基準値から設定した最終目標値の達成に向けた取り組み状況を評価したものとなっている。

個々の事業の中からいくつか説明する。

始めに前年に続き、B 評価となっている、①「スポーツ推進委員の活動への支援（スポーツ奨励大会の開催を含む）」や②「市民スポーツ指導員の地区活動実施と支援」などを挙げる。いずれも、最終目標値には届いていないが、実施された奨励大会の参加人数や市民スポーツ指導員の地区事業参加人数は、前年度よりも増加傾向にあり、令和元年度の実績値である基準値に近づいている。

次に、前年同様、C 評価のままとされている、⑬「感覚統合グループ（4・5歳児）」や⑳「健康づくり推進協議会主催『習志野発見ウォーク』の開催」を挙げる。いずれも、令和7年度に該当事業を実施しなかったことによる評価である。⑬においては、グループでは実施せず、個別対応へ切り替え実施した。㉑においては健康づくり推進協議会が令和6年度に廃止したため、実施できなかった。しかし、公民館でのフレイル予防講座や本庁舎において健康に関する測定会を新たに実施するなど、市民の健康づくりに向けた事業を実施した。

次に、前年度より評価が下がった事業、⑭「あじさいクラブ連合会（老人クラブ）主催各種スポーツ大会への支援」や⑳「てんとうむし体操の推進」を挙げる。いずれも、高齢化に伴う会員数や団体数の減少が主な要因であり、取り組み自体の停滞とは見受けられないものの、会員数や団体数を増やしていくことが根本的な問題となっている。

また、前年度と比較して、評価が改善された事業は7事業となり、前年度の6事業を超える結果となった。

令和7年度は、計画期間の最終年度であり、次期計画の策定年度となっているため、単年度単位での評価だけでなく、6年間の計画期間全体における、達成状況や次期計画への課題についても記載している。

本計画期間における全体評価として、新型コロナウイルス感染症の影響により、各事業で実施方法の見直しや感染防止対策など、柔軟な対応が求められた。各担当課にお

いて、コロナ禍による生活様式の変化を踏まえながら工夫を重ね、目標の達成に向けて着実に事業を推進することができたものとする。一方で、スポーツ活動を支える指導者や参加者の高齢化、スポーツ施設の整備・維持管理、さらには効果的な情報発信や周知方法など、引き続き取り組むべき課題も明らかとなった。これらの課題について、次期計画においても重要な視点と位置づけ、今後の施策に反映させていく。

当会議後、令和8年度を始期とする現行計画における各事業の基準値や最終目標、最終目標を達成するための単年度目標について検討し、改めて委員の皆様へお諮りする。

【阿川会長】

事務局からの説明に関して意見等はあるか伺う。

【澁川委員】

「するスポーツの推進」に関して、参加者を増やすための具体的な施策はあるか伺う。

【伊東課長】

参加者を増やすためには、何をやっているかを知ってもらうことが重要である。従来の広報やホームページを活用した周知を継続することに加え、コロナ禍以降、習志野市の公式 LINE の登録者数が大きく増えたため、LINE を活用した案内等も検討している。

【澁川委員】

きらっとまつりなど、人が集まる場での周知の活動も行っているかどうか。

また、総合型地域スポーツクラブの支援を少し増やし、総合型地域スポーツクラブと市民スポーツ指導員などの団体間のネットワークを活性化させて欲しい。これにより、習志野市が持つスポーツ施設の活性化、有効活用につながる。運営体制として、するスポーツに係る参加者が運動しやすい環境整備をお願いしたい。

【伊東課長】

皆様が集まる場で PR することは、非常な大事なことと感じている。ぜひ、機会をとらえながら活動していきたい。

【阿川会長】

他に意見等はあるか伺う。

【引原委員】

⑩「毎日楽しく体を動かす遊びの推進」について、市が運営している保育園で推進されているのか、それとも個々の施設で推進しているのか伺う。

【伊東課長】

習志野市の保育所、こども園にて、日々の保育、教育の中で積極的に体を動かす時間を作るという取り組みを推進している事業である。

【引原委員】

ちなみに、施設の総数に関して、認可しているものも含まれているか伺う。

【伊東課長】

具体的な数字は、すぐにはお伝えできない。

市内に関しては、認可の施設での事業であったと考える。また、中学校区ごとにこども園が設置されており、そちらでも取り組みが行われている。その他にも、私立、公立などでも等しく教育、保育が行われるように、こども保育課で基準を設けており、各園で活動が行われている。

【引原委員】

小学校と違い、認可されている施設や市が直接運営している施設など様々あり、届いている範囲がどこまでか知りたかった。しっかりと、市内で周知されており、公益性が高いと判断できた。

【阿川会長】

他に意見等はあるか伺う。私のほうからも1点伺いたいが、
現行計画についての、「各事業の個別目標は今後決定いたします」と記載があるが、いつ頃になるかスケジュールを伺う。

【伊東課長】

令和8年度半ばまでの設定を目指し、今日いただいた意見を踏まえ、担当課と協議し

ていく。

【阿川会長】

目標に関しては、今後の計画達成の重要な指針になっていくため、ぜひ協議いただきたい。

阿川会長が他に質疑なしと認め、報告(2)は終了した。

【伊東課長】

報告(3) 第一カッターフィールドリニューアルイベント「スポーツフェスティバル」実施報告について説明する。

資料「第一カッターフィールドリニューアルイベント「スポーツフェスティバル」実施報告」をご覧ください。

秋津総合運動公園内の第一カッターフィールドは、昨年秋から改修工事を実施し、本年4月に人工芝フィールドとしてリニューアルオープンをした。

これまでの天然芝では、芝の生育状態を維持するための養生期間が必要であり、年間約200日は利用できなかったが、人工芝化により養生期間が不要となり、年間を通じて利用が可能となった。

また、天然芝では、グラウンド全体の芝の状態を均一に保つ必要があったため、利用方法に一定の制限が設けられていた。しかし、人工芝化により、多様な利用が可能となった。

ここからは、4月26日に開催された第一カッターフィールドリニューアルイベント「スポーツフェスティバル」の実施概要について報告する。

本イベントは、人工芝化に伴う利用方法の変更を広く周知するとともに、市民の皆様に人工芝に親しんでいただく機会を提供することを目的に開催した。利用方法の変更に関しては、従来大人用のサッカーコートラインのみであったが、アメリカンフットボールコートライン、少年用のサッカーコートラインが追加され、1面利用、2面利用の多様な利用が可能となった。

イベント当日は、阿武松部屋、オービックシーガルズ、千葉ロッテマリーンズ、日本生命、モルッククラブによる体験ブースを設置したほか、箱根駅伝で活躍された日本生命保険相互会社に所属する、青山学院大学卒の若林宏樹さんを講師に迎え、「走り方教室」とトークショーを実施した。

当日の来場者数は629名で、各体験ブースへの参加者数は、阿武松部屋339名、オービックシーガルズ297名、千葉ロッテマリーンズ381名、日本生命451名となり、多くの方々にご参加いただいた。

なお、資料には当日の様子を写真で掲載しているため、併せてご覧いただきたい。

【阿川会長】

当日は、私も参加させていただいた。非常に良い天気で、オープニングとして良い一日であった。

意見等はあるか伺う。

【山口委員】

当日は、スタンプラリーが開催されており、4施設すべてを周ることができるシステムで、非常に良かった。また、ヨガ教室では、子どもはもちろんだが、女性男性どちらも楽しんでいる様子を確認できた。広いフィールドでは、裸足で人工芝の感触を楽しむ方もおり、大人も含め、いつもより笑顔が晴れやかであった。このような施設は市内に必要であり、ぜひ多くの方に利用していただきたい。期待している。

【伊東課長】

人工芝化により、利用のコマ数が増えたことや、全面以外にも4分の1単位から利用が可能になったことから、かなり利用者数が伸びている。平日の午後5時以降や土日はほとんど予約が入っており、多くの方がすでに利用している。今後もイベント等を通じて、PRしていく。

【阿川会長】

他に意見等はあるか伺う。

【引原委員】

第一カッターフィールドは団体のみではなく、個人利用もできるのか伺う。

【伊東課長】

個人利用も可能である。

【阿川会長】

他に意見等はあるか伺う。

阿川会長が他に質疑なしと認め、報告(3)は終了した。

【伊東課長】

報告(4) 令和9年度全国高等学校総合体育大会について説明する。

資料「令和9年度全国高等学校総合体育大会について」をご覧ください。

全国高等学校総合体育大会、通称インターハイは、高校生最大のスポーツの祭典であり、全国の高校生アスリートが日ごろの鍛錬の成果を競い合う全国大会である。

大会は、夏季大会と冬季大会に分かれて毎年開催されており、夏季大会は平成23年度以降、全国を12ブロックに分けたブロック輪番制により開催されている。令和9年度は、千葉県・東京都・神奈川県・山梨県の南関東ブロックが開催地となり、千葉県内では9競技が実施される。本市では、令和9年度8月17日から20日までの4日間、千葉県国際総合水泳場を会場として、水球競技が開催される。

大会の愛称は「描け夢への軌跡 南関東総体2027」、スローガンは「挑め力の限り 目指せ永遠の輝き」である。

本市で競技が開催されることにより、全国から選手・監督をはじめ、多くの大会関係者や観客が来訪することから、本市の魅力発信や地域の活性化につながることを期待される。また、高校生のひたむきな姿や全国トップレベルの競技に触れる機会を創出することで、子どもたちの健全育成やスポーツ振興にも大きく寄与するものと考えている。

さらに、大会運営を通じて、市民、学校、関係団体、企業及び行政が連携し、地域が一体となって大会を支える機運の醸成にもつながるものと期待している。

大会開催に向けては、昨年7月に千葉県実行委員会が設立され、県を中心に準備が進められている。本市においても、7月2日に習志野市実行委員会設立総会を開催する予定であり、設立後は令和9年度大会の成功に向け、関係機関と連携しながら準備を本格化していく。

【阿川会長】

意見等はあるか伺う。

阿川会長が他に質疑なしと認め、報告(4)は終了した。

【青木主任主事】

報告(5)その他について説明する。

今期の委員任期中の会議の予定はなし。

ただし、任期中に諮る必要性がある事項が生じた場合は、会長から会議の招集をする場合がある。

【閉会】

阿川会長が令和8年度第1回習志野市スポーツ推進審議会の閉会を宣言。